

リキッドバイオプシーによる“未病の見える化”

愛知医科大学病院 先制・統合医療包括センター 教授

福 沢 嘉 孝

よろずクリニック	萬 憲彰
有限会社マイテック	長谷川克之
統合医療 希望クリニック	堀田由浩
がん免疫研究所	倉持恒雄



最近、疾患部位の組織採取を実施せずに、体液を使用し低侵襲的にバイオマーカーを測定・診断するリキッドバイオプシー (liquid biopsy、以下LB) という技術が注目を集めつつある。解析対象の代表的なものとして、血中循環腫瘍細胞 (CTC)、がん細胞に由来するDNA (ctDNA) が良く知られており、ごく最近では無標識LBであるプロテオ検査が有名である。これらは何れもがん早期診断、治療効果判定、再発モニタリング等への応用が期待されている。

一方、本学は2015年4月から、国内外初となるマーナ (mRNA) 健康外来を創設して、先制医療に微力ながら貢献して来ている。本外来の重要性とその臨床的意義として、mRNAを測定・評価することにより、所謂“未病の見える化《visualization of sub-health (half sick)》”、それによる意識付け・行動変容→未病改善を目指している。

今回我々は、マーナ (mRNA) 検査、プロテオ検査、CTC検査を用いて、現在の健康状態 (病態) を見える化した症例を2例経験したので報告する。

症例1は胃がん症例 (signet ring cell type、Stage IIIA) で、症例2は慢性持続性・血性乳汁分泌症例 (生検8回) である。この2症例の結果を供覧しながら、今後の展望につき、参加者の皆様の忌憚なきご意見・コメントを頂ければ幸いである。

【略歴】

1984年 愛知医科大学医学部医学科卒業 (医籍登録第 287008 号)
 1999年 愛知医科大学医学部内科学第1講座：助教授
 2001年 愛知医科大学医学部内科学講座消化器内科：助教授 (臓器別診療科)・合教員
 2009年 愛知医科大学大学院医学研究科 (医学医療教育学)
 医学教育センター教授・同センター長
 2014年 独逸：ミュンヘン大学 (LMU) 医学部：客員教授 (2014年7月～)
 中国：河南省：中医学大学医学部：客員教授 (2016年8月～)
 2015年
 ～現在 愛知医科大学大学院医学研究科教授 (戦略的先制統合医療・健康強化推進学)
 愛知医科大学病院 先制・統合医療包括センター教授・部長

(主な学会活動・社会貢献)

日本先制臨床医学会：理事長
 臨床ゲノム医療学会：副理事長、健康促進・未病改善医学会：副理事長
 日本臨床研究安全評価機構：副理事長、日本美容再生医療学会：常任理事
 日本健康医学会：理事、国際個別化医療学会：理事、日本アロマセラピー学会：理事
 世界中医薬学会連合会：理事、日本医学英語教育学会：理事
 日本珪素医学学会：理事